

令和4年

12月26日(月)

15:00~17:00

弘前大学創立50周年記念会館
みちのくホール

豪雨災害から ライフラインを守る ～青森県の被害から～

令和3年8月、令和4年8月と青森県は豪雨災害に会い、様々な被害が発生した。その被害の一つに道路閉塞、橋梁流出がある。この結果、地域は物理的に孤立し、さらに道路や橋梁に沿って伸びている水道管や電気線など発生した被害により、生活が困難になっている。道路の閉鎖という点では、昨冬に西目屋村において局所的な豪雨により斜面が崩壊し、道路が閉塞した。その結果、地域の経済活動が低下している。言い換えれば、道路閉塞だけが問題ではなく、生活を支えるライフラインが分断され、経済活動が低下することが問題である。

青森県は周囲を海に囲まれていることから、海岸線を走る道路が必要であるが、その海岸線に急峻な崖がせまっている箇所が少なくない。そのような場所に豪雨や強い地震の揺れが加われば、道路閉塞が生じる可能性は高い。本講演会では、降雨の特徴や被害例を知り、どのようにすれば我々の生活を守ることができるのかを考えたい。

- 15:00~15:05 開会挨拶
- 15:05~15:25 主旨説明と被害の概要 小岩直人(弘前大学地域共創科学研究科)
- 15:25~15:55 降雨の特徴 谷田貝亜紀代(弘前大学理工学研究科)
- 15:55~16:25 被害例 鄒青穎(弘前大学農学生命学部)
- 16:25~16:55 土砂災害によるライフラインの途絶を防ぐために
檜垣大助(弘前大学名誉教授)
- 16:55~17:00 閉会挨拶 片岡俊一(弘前大学地域共創科学研究科)



弘前大学

主催:自然災害研究協議会東北地区部会・日本自然災害学会東北支部
共催:弘前大学大学院地域共創科学研究科
後援:弘前大学大学院理工学研究科
連絡先:弘前大学 片岡俊一, E-mail : kataoka@hirosaki-u.ac.jp, 電話 : 0172-39-3616